

予算特別委員会審査から③

3月5日

気候非常事態宣言を！
地球温暖化に神戸市の態度を示せ
環境局審査で朝倉議員



質問する朝倉えつ子議員

近年の異常気象は、世界規模の重大な被害をもたらしており、神戸市においても2018年の西日本豪雨では土砂災害や広範囲の浸水がおこったことを考えても、環境への取り組みは今が正念場です。神戸市は環境マスタープランで2030年までにエネルギー消費量22%削減、CO₂は34%削減目標をかかげています。環境局

西神中央駅前にある西神そごうが今年8月に撤退する予定です。これまで神戸市は何度も家賃を下げてきましたが、突然の一方的な撤退に市民からは戸惑いの声があがっています。林議員は「街の豊かさの象徴がなくなるのは残念」「地域衰退に影響する」など、わが会派がとった市民アンケートでの声を紹介。大企業を優遇するだけで何も手立てを打たないのは断じて許せないと迫りました。また神戸市は、西神中央駅周辺にマンションを700戸建て2000人の人口を確保する計画を建てていますが、林議員は住み替え移動だけで人口増対策にはならないと追及、「駅前だけ綺麗にするのではなく、たけのプラザやみかたプラザなど今ある施設を充実すべき」と質しました。

答弁ダイジェスト

林議員：たけのプラザはひとつの店が

1. エネルギー消費削減、CO₂削減目標の引き上げについて
2. 神鋼石炭火力発電について
3. 「気候非常事態宣言」の表明について
4. 北区山田町太陽光パネルについて

質疑項目

の報告では2017年の温室効果ガスの排出量は2013年との比較でマイナスとなっており、それは「2017年10月に神戸製鋼所の高炉が休止した」からだとして神戸市は認めています。神戸製鋼所は現在石炭火力発電を2基稼働させており、さらに2基建設中です。朝倉議員はこの計画は、市のとりくみにも世界の流れからも逆行している、市として石炭火力はやめよと求めるべきと強く要請しました。

そして今、深刻化する気候変動に対応しようと活動する人たちの声をうけ、各国の議会や自治体で「気候非常事態宣言」の採択が広がっています。朝倉議員は「神戸市も気候非常事態宣言を表明すべき」と求めました。

答弁ダイジェスト

斉藤環境保全部長：啓発活動を行っているので、実質的に実施していると考えている。

質疑項目

1. 西神中央駅前再開発について (林議員)
2. 雲井通5丁目地区都市再生事業について (林議員)
3. 新長田駅南地区震災復興市街地再開発事業の検証について (森本議員)

閉めてから1年以上になる。家賃が高いため次が入らない。今入居中の店も含めて家賃を下げたらどうか。

山本新都市事業部長：OMこうべと一緒に新しいテナントを設けるための検討を進めている。家賃どうのこうのは言えないが、できるだけ地域に喜んでいただけるテナント誘致に取り組んでいる。

林議員：他のプラザもそうだが、最初

朝倉議員：市民の、多くの若い世代の要望に行政がこたえて、しっかり態度を示すことが求められている。当然、検討すべき。

太陽光パネルの設置に対しては「森林伐採により自然環境を失ってまで、やみくもに導入拡大を求めるものではない」との市長意見が出されています。朝倉議員は希少動物の捕獲の難しさ、近隣住民への周知の不充分さを指摘し、「環境の専門家も懸念をされている。保全のフォローアップはどうするのか」と質しました。

答弁ダイジェスト

福本局長：神戸市長の意見書に沿って事業者に指導を行っている。

朝倉議員：近隣住民への説明、意見収集も含め徹底して、さらに規制強化をするべきだ。

3月5日

駅前再開発より
今ある地域の施設充実を
都市局審査で林議員



質問する林まさひと議員

だけ減免するが家賃は上がっていく。大企業の西神そごうには次々家賃を下げて優遇するのだから、地域に密着したプラザの家賃も下げるべきだ。

新型コロナウイルスに関するお困りごとを
市議団へお寄せください



3月6日

子どもたちが望むおいしくて あたたかい中学校給食を 教育委員会審査で松本議員



質問する松本のり子議員

新型コロナウイルス対策で、神戸市は市立の学校園の一斉休業を決定しました。松本議員は、自宅で過ごしている子どもたちの中で食事を摂れていない子どもや、家庭で居場所のない子どもへの対

昨年、神戸市は東遊園地と須磨海浜公園にP-PFIを導入しましたが、様々な問題点が指摘されています。特に、須磨海浜公園の再整備では新水族館の入園料が現行の2.6倍以上に設定されるなど、いままでの慣れ親しんだスマスイからリゾート施設へ変貌させる計画になっています。驚いた多くの市民から反発の声があがり、「私たちのスマスイをまもってほしい」と運動が広がっています。

もともと、都市公園は、自然を維持するとともに、市民の憩いの場や防災拠点ともなるものです。P-PFIでは、事業者の選定に議会の議決を必要とせず、市民、利

3月10日

マスク等の備蓄、 なぜしていなかったのか 危機管理室・消防局審査で森本議員



質問する森本真議員

厚生労働省は新型コロナウイルス感染症発生にともない、2月10日に「各種防護具の確保策について」2月25日に「医療用マスクの安定供給について」として「各自治体にマスクなどの備蓄を医療機関に放出してください」との要請をだし

1. 新型コロナウイルス対策について
2. 社会教育施設の市長部局移管について
3. 中学校給食について

質疑項目

策を求めました。さらに、ある小学校では、公園で遊ぶことを自粛するよう保護者に通知したことについての質問に、後藤次長は「むしろ公園遊びは推奨されるべきこと」と答弁しました。

また、中学校給食について、全員喫食を目指すために給食費を半額にする予算案が提出されていますが、松本議員は、給食費半額と同時に、アンケートで生徒や保護者が求めている「あたたかい給食」を提供できるよう、自校調理方式の導入を求めました。

答弁ダイジェスト

松本議員：昨年教育委員会がとったアンケートでは、「給食費が上がっても給食内容を充実してほしい」という意見が大半だ。アンケート結果を真摯に受け止

質疑項目

1. 須磨多間線について
2. P-PFI(都市公園における民間資金を活用した整備・管理手法)について
3. 団地内道路の神戸市への移管について

用者の声を反映するしくみがありません。海浜公園を利用してきた市民からは「ゆったりした空間で居心地がいい公園だ。リゾート開発で、長年親しんだ公園がかわってしまう。自分たちの思いはどうなるのか」と不安の声があがっています。

2018年9月の企業建設委員会では、山本議員の「市民の声を聞かないのか」という指摘に広脇公園担当局長は「今後考えていかないといけない」と回答しています。山本議員は「実際にそういう機会がない。どういうことか」と質しました。

1. コロナウイルスによる経済危機対策について(林議員)
2. コロナウイルス対策について(森本議員)

- マスク備蓄について
- 阪神・淡路大震災の経験の継承について

質疑項目

ています。神戸市も2009年の新型インフルエンザの時の在庫18万枚を民間の医療機関に提供する予定ですが、使用期限が2014年と期限がきれたものとなっています。森本議員は、「阪神・淡路大震災や新型インフルエンザなどの経験があるのに、なぜマスク等の備蓄がないのか。危機管理体制がなっていない」と追及、医療関係者や市民の分の備蓄をしっかりとするよう要求しました。

めて、自校(調理)方式にすべきではないか。

荒牧学校支援部長：自校方式に変更するには、多額の財政負担とスペースの確保が必要で実施は困難。

松本議員：中央区以外は全校自校できると聞いている。一校ずつ図面をみて検討したのか。

荒牧学校支援部長：していない。

長田教育長：給食を導入するときやっているはずだ。スペースに余裕があるという話は聞いていない。慎重に検討した結果である。

松本議員：子どもたちの悲痛な声を聞き、親子方式もモデル校だけでなく、(親子方式が可能な)全学校で実施すべきだ。

3月6日

声をうけとめて 市民のための施設に! 建設局審査で山本議員



質問する山本じゅんじ議員

答弁ダイジェスト

広脇公園担当局長：事業者と地元への説明を順次行っていく。

山本議員：地元と限定していない。(海浜公園一帯は)地域だけのものではなく、市民が広く利用する施設。市民や利用者の声が置きざりに、P-PFI制度を安易に導入すべきではない。

答弁ダイジェスト

森本議員：マスクの使用期限の切れているのを了承してくださいという念書をとって配布すると病院関係者から聞いている。マスクの期限切れはどういう害悪があるのか。

馬場危機管理室長：メーカーの仕様では5年となっている。サージカル機能はおちないが耳のゴム部分が若干朽ちているのが承知している。

森本議員：「まだ起きていない事態に備える」リスクマネジメントが重要だ。マスクは大事だということは明らか。今後備蓄するのか。

馬場危機管理室長：備蓄の必要性十分認識している。反省しながら教訓にして次につなげる。